

## 10月例会「初秋・ネイチャア・フィーリング」報告

平成30年10月14日(日)。午前10時～正午、立田山憩の森「お祭り広場」。自然観察指導員熊本県連絡会(自然観察くまもと)との共催。参加48名(会員21名、自然観察くまもと27名)。

さわやかな秋空の下、車イスでの参加者を含め、自然が大好きな子ども達でにぎやかな観察会となりました。

始まりの会では、自然観察くまもとのつる会長から「ネイチャア・フィーリングとは、五感を使って体全体で自然を感じ取ること。今日は思いっきり楽しんでください」と挨拶の後、紙芝居を見ながら「立田山の危険な動植物」について学習しました。

まずはトチノキの下に移動して自然観察。自然観察指導員から「トチの実を探そう」「こんなに沢山の実を付けるのは何故」「木の芽を触るとベタベタします」と説明を受けながら、子どもも大人も新たな発見に「へえ～、そうなんだ」と納得します。

続いてイノシシが掘り起こした後の観察。みんなでイノシシの足跡を探しましたが発見できませんでした。コゲラの巣の観察では、標本の巣穴に指を入れて穴の深さを実感。広場の中央にはウサギの糞がありました。子ども達は糞の周りに円陣を組んで座り込み、指導員の「ここはウサギの共同トイレ。夜やって来て、周りの外敵にキョロキョロ気を配りながら糞をします」といった説明を聞きながら「うんこ臭くないね」「昨日の夜に来たのかな」と興味津々です。ドングリの観察では、たくさん実を付けたアラカシの木を前に、「立田山には10種類くらいのドングリが見られること」「アラカシの実は渋くてあく抜きをしないと食べられないこと」「チョコキりは青い実に卵を産み付け、枝からチョコキと切り落とす」ことなどを学びました。

「暗やみ探検コース」では、木と木を繋ぐように張った30メートルのロープを、目隠しをしてつたい歩く体験をします。指導員が「目隠しして木の手触りや香り、足元の枯葉の感触を楽しんで」「目の不自由な方のご苦労も理解しましょう」と説明。子ども達は、コースの出発点まで指導員や保護者に手を引かれてロープを掴みます。カエデや樺の葉や幹の手触り、踏むとフワフワな腐葉土などを確かめながら終着点に無事ゴールしました。

最後は「ネイチャア・クラフト」を楽しみます。マテバシイのドングリや葉っぱで作るカザグルマに挑戦。子どもも大人も、羽根や軸棒、台座などの部材をもらい、指導員の説明に合わせてカザグルマ作りに熱中。完成したカザグルマがさわやかな秋風を受けてクルクル回ると「やったー。風を捕まえた」と歓声が上がりました。

正午、予定通り参加者全員ケガも熱中症もなく、楽しい楽しい観察会が無事に終了しました。

